

統計だより

県内各市町の統計所管課だより(その10西海市)

西海市さいかい力創造部政策企画課 百岳 祐介

【西海市の紹介】

西海市は、西彼杵半島の北部にあり、県内の2大都市である長崎市と佐世保市の間に位置しており、平成17年4月1日に西彼町、西海町、大島町、崎戸町、大瀬戸町の5つの町が合併し誕生しました。

総面積は241.95k㎡(平成21年4月1日現在)で江島、平島、松島などの架橋で結ばれていない有人島を有しています。

本地域は、リアス式海岸などの複雑な地形を持った海岸線や、点在する大小さまざまな島、丘陵起伏が続く地形といった美しく優れた自然景観を有しており、西海国立公園、大村湾県立公園、西彼杵半島県立公園の3つの自然公園に指定されています。

〈自然・歴史〉

西海市は、五島灘(外海)や大村湾(内海)に囲まれ、自然体験プログラムが豊富にあり、春休みや夏休みはアウトドアレジャーを楽しむ人たちが多く訪れます。

ダム湖の「伊佐ノ浦公園」、うず潮名物の「西海橋公園」、大村湾と隣接した「四本堂公園」などがあり、夏はエメラルドグリーンの遠浅の砂浜が広がる「尻久砂里海浜公園」や「柳の浜海水浴場」「崎戸海浜公園」が人気です。

また、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録の動きもあり、あらためて南蛮船来航の地・横瀬浦や天正遣欧少年使節の一員でもある中浦ジュリアンの出生の地・中浦地区などにも注目が集まっています。

さらに、社会のデジタル化が進むなか、アナログレコードを聴きながら、時を忘れ、音楽を心とからだ全身で感じることでできる施設「音浴博物館」には、全国各地からファンが集まり、年々来場者が増え続けています。

西彼杵半島の静かな森の奥深くに位置し、約16万枚のレコードや、100年以上前の手回しの蓄音機など、音にまつわる膨大な収蔵品は懐かしさと共に、当時の記憶を呼び戻させてくれます。レコードと旧式のスピーカーから流れる味わい深いアナログの音楽を聴いて、思わず涙する人も多く、忙しく毎日を送る人たちの癒しのスポットとしても注目されています。



《音浴博物館》

〈食・産業〉

西海市は、豊かな自然がもたらす恵み、交流によって育まれる歴史・文化、それらを活かす人々の想いによって、多くの産品が生み出されています。

また、西海市の魅力がぎゅぎゅっと詰まった多くの産品の中から厳選して、水産品では、「崎戸春エビ（イセエビ）、糸ベズ蛸、アラカブ、うず潮カキ、イサキ」の5品。農産品では、「みかん、大島トマト、長崎和牛さいかい、西海トマト、ゆで干し大根、西海ポーク（豚肉）」の6品。加工品では、「かんころ餅、磨き大島（芋焼酎）、酢らり（お酢）、西海カラマンダリン甘熟じゅうす（みかんジュース）、大島トマトジュース」の5品の合計16品の逸品を西海ブランド戦略商品に選定しています。

現在、県内はもとより、首都圏、関西圏を中心とした県外に向けてPRし、「ぎゅぎゅっと！西海」の統一ブランドで西海の味の魅力発信に取り組んでいます。



《崎戸春エビ（イセエビ）》



《みかん》

【統計について】

今年は調査開始100年目の節目を迎える国勢調査が全国一斉に実施されます。

日本の今を知り、未来をつくる大切な調査ですので、皆様のご協力をお願いいたします。